



IL MUSEO DELLA CINQUECENTO

Black mouse

報道関係の皆さま
プレスリリース

2022年11月2日

チンクエチェント博物館

イタリアのヴィンテージカーを日本の伝統工芸で ビスポークするという新提案。 チンクエチェント博物館は、FIAT 500をベースにした ビスポークのコンセプトモデル「ブラックマウス」を発表。

「チンクエチェント」の愛称で親しまれるFIAT 500を所蔵・展示するチンクエチェント博物館（愛知県名古屋市）では、旧FIAT 500の外装・内装に至るまでオーナー自身のイメージを表現できるビスポークを始めました。

※ビスポーク(Bespoke)とは、職人などのづくり手と対話しながら自分だけのオリジナルの1台を製作するものです。

- ラグジュアリーブランドではお馴染みのビスポークを、ヴィンテージカーのFIAT 500で楽しむ贅沢。
- イタリア車に西陣織や漆芸といった日本の伝統工芸を用いて仕上げるコンセプトモデルは、大人の遊び心を満たし、粋なライフスタイルを体現。
- 「ブラックマウス」は、ビスポークのコンセプトモデル第一弾。
- 「ブラックマウス」と同じ仕様のオーダーも可能。
また、それをベースにして自身でアレンジを加えた仕様を製作することも可能。



「ブラックマウス」ブランドサイト <https://museo500.com/bespoke>

イタリアの象徴 × 和の伝統

チンクエチェント博物館のビスポーク「コンセプトモデル」

イタリアの国民車であり、世界中に多くのファンを持つFIAT 500(愛称：チンクエチェント)。イタリアの象徴とも称されるクルマを、日本の伝統工芸とカスタム技術でビスポークし、オーナーにとってかけがえのない存在に仕上げている。

それがチンクエチェント博物館のビスポーク「コンセプトモデル」です。

ラグジュアリーカーではお馴染みのビスポークを、敢えてイタリアの大衆車FIAT 500で愉しむ。

日本の伝統工芸の技で、自分らしさを表現する。

「コンセプトモデル」は、そんな大人の粋な感性と遊び心を満たす贅沢なカーライフを提案します。

※日本人の感性と伝統工芸を用いた「ブラックマウス」をはじめとするコンセプトモデルは、今後アメリカのモーターショーでも公開し、海外にも提案する予定です。

コンセプトモデル第一弾「ブラックマウス」は FIAT 500にスポーティ&エレガントという新たな価値を与えたモデル

2022年、コンセプトモデル第一弾「ブラックマウス」が完成。

「ビスポークはその当時の時代感やオーセンティックさを大切にしながら遊びを入れたい」と語る自動車ライターの西川淳氏をプロデューサーに起用し、つくり上げたモデルです。

スーパーカーにも造詣が深く、クルマ趣味を追求し続ける西川氏の「小さくて丸いFIAT 500のフォルムは、まるでネズミのよう。愛らしいこのクルマに、スポーティかつエレガントな美意識を与えたら面白い」という発想から「ブラックマウス」の製作がスタートしました。

西川氏のアイデアをもとに、ヴィンテージカーのレストアを多く手掛けるスタークラフトが車両をカスタム。

内装などのしつらえは、日本の伝統工芸を軸にラグジュアリーなカーライフ文化を提案するKiwakotoが行いました。

3者の感性と技が融合し、唯一無二の美意識と新たな価値を備えた「ブラックマウス」が誕生しました。

西川淳氏の感性、日本のレストアラーと伝統工芸の職人がつくり上げた 「ブラックマウス」の世界

第一印象となるフロントはフォグランプとスポットランプで精悍なイメージに



クルマの第一印象となるフロントには、フォグランプとスポットランプを装着。

1960～70年代のラリーカーと同じ配列にし、スピード感とスポーティさを表現しました。

フォグランプはキャレロ製、スポットランプはルーカス製で、いずれも当時のものを使用。

塗装色はクラシカルで優美な印象のソリッドブラック



塗装色は、吸い込まれるような深みのあるソリッドブラックを採用。
往年のクルマに見られるようなクラシカルでエレガントな雰囲気の色味にこだわりました。

赤・白・緑のピンストライプ、ロゴ、ネズミの線画をペイント



イタリアの国旗をイメージし、ボディのサイドに赤と緑、リアに白のピンストライプを入れ、遊び心をプラス。
運転席側である左サイドは走りの情熱を表す赤色を、助手席側である右サイドは寛ぎ感ある緑色を使い、ピンストライプ、ネズミ、「Bm」のロゴを描き入れました。
ネズミの描き方も左右で変えるなど、細部に至るまで西川氏の感性が息づいています。

戦国時代の甲冑にも使われたとされる“革の黒ダイヤ”黒棧革をシートに使用



シートは黒い革を用い、上部(ハーフムーン)とパイピング部分には“革の黒ダイヤ”とも称される黒棧革を使用。なめしと漆塗りの技術によって仕上げられたこの革は、戦国時代の甲冑にも使われ、験担(げんかつ)ぎにされたと言われる素材です。

躍動的なイメージを表現しつつ、交通安全の願いも込めて採用しました。

内張は光彩や角度によって見え方が異なる、表情豊かな西陣織



内張は、西陣織の織元と開発した「ブラックマウス」専用のテキスタイル。

黒糸、銀糸、鼠色の糸で織り上げて立体感とグラデーションを表現した西陣織です。

光の当たり方や見る角度によって、Black mouseの文字・FIAT 500・ネズミを組み合わせたオリジナルのモチーフが浮かび上がります。

インテリアも黒とシルバーで構成し、精悍で優美な空間を演出



シフトノブ、チョークレバー、スターターレバーなど、細かいパーツもメッキ加工で仕上げ、スポーティかつエレガントな空間をつくり上げました。

クルマは“走る部屋”であり“自分にとって居心地の良い空間”でもあるという西川淳氏の考えから、オーナーのライフスタイルや遊び心を大切にされた仕様を提案します。

『ブラックマウス』をはじめとするコンセプトモデルを手掛け、 あなたのビスポークをお手伝いするチームを紹介

自動車ライターの西川淳氏をはじめ、西川氏が信頼するスタークラフトと
Kiwakotoによるチームが、あなたのビスポークをお手伝いします。



右から西川淳氏、スタークラフトの田中雄一郎氏、Kiwakotoの吉村優氏。

「ビスポークは究極の自己満足だからこそ、遊びも大事。コンセプトモデルは、僕が思い描くイメージや遊び心をスタークラフトとKiwakoto に伝え、具現化してもらいます。話し合いながら、伝統工芸の職人と会ったりしながら、自分が想像していた以上に素晴らしいモノをつくり上げていく、その過程もビスポークの醍醐味です。『ブラックマウス』をベースにして、自分好みにアレンジするのもよし、自分のアイデアで一からつくるのもよし。チームの我々が嫉妬するようなビスポークのアイデアもお待ちしております。」(西川氏)

西川淳

クルマ趣味”実践派”ライター。

スーパーカーをはじめ、スポーツカー、クラシックカー、ラグジュアリーカーなど、さまざまなクルマを愛し、クルマ趣味を追求し続けている。

京都在住。

<https://www.instagram.com/junjun2929/>

スタークラフト

神戸を基盤としたレストアとメンテナンスのプロ集団で、フェラーリなどのビスポークも多く手掛ける。

「大衆車のFIAT 500でも、こんなにも面白いことができるんだというビスポークの楽しさ、醍醐味をお届けしたい。」(レストアラーの田中氏)

<http://starcraft.co.jp>

Kiwakoto

日本の伝統工芸のクラフツマンシップを軸に、現代のライフスタイルに調和するアイテムを展開する京都のブランド。クルマのビスポークにも多く携わる。

「職人による手仕事、用の美を追求したデザインなど、他にはないこだわりをカタチにして提案します。」(吉村氏)。

<https://kiwakoto.com>

“動くモダンアート” FIAT 500のビスポークを提案する チンクエチェント博物館



私たちチンクエチェント博物館は、イタリア車のFIAT 500を所蔵・展示する私設博物館です。

FIAT 500は後世に残すべき文化的な遺産であると信じ、保護・保存の一環としてイタリアに現存する古い車両をイタリアで現役のクルマとして再生。

日本のみなさまにお届けしています。

私たちが扱う1台1台は、未来に継承できる品質へとアップグレードさせた“動くモダンアート”であると考えています。

文化的な遺産であり、“動くモダンアート”でもあるFIAT 500に新しい価値を 生み出し、オーナーとクルマの関係性の価値も高めるビスポークを提案

古いFIAT 500を未来につなぐ方法の一つとして、2022年から本格的にビスポークを展開しています。

自分自身でアイデアを出し、こだわりや想いを伝え、工程に携わることで、オーナーはカーデザイナーとなり、クルマは自分が生み出した作品になります。

オーナーと愛車という関係性に、クリエイターと作品という新たな価値が生まれるのもビスポークの魅力です。

“動くモダンアート”FIAT 500 に新たな価値を与え、カーライフをより自分らしく、より豊かにするビスポークの世界を、あなたも楽しんでみませんか。

【コンセプトモデル第一弾『ブラックマウス』車両詳細】

ベース車両：FIAT 500 Rタイプ 600cc（1973年式）

PRICE：6,600,000円(消費税込)

※チンクエチェント博物館（愛知県名古屋市）渡しの価格です。

※クラシックカーの為、保証は対象外となります。

※登録を済ませており、ナンバープレートは取得しています。

ナンバープレートを新規取得する場合は登録料が必要となります。

※価格は、2022年11月2日現在の希望小売価格です。

登録諸費用、保険料等は含まれておりません。

※写真は実車とは異なる場合があります。

※価格、諸元、仕様ならびに装備等は予告なしに変更する場合がございますので、予めご了承ください。

■ 取材のお申し込み、詳細・ご不明な点は下記までお問い合わせをお願いいたします。

チンクエチェント博物館

担当：深津

TEL：052-871-6464 FAX：052-882-1105

携帯：090-7048-5358

e-mail：fkz@museo500.com

HP：www.museo500.com

■ 関連画像は下記からダウンロードいただけます。

<https://museo500.com/blackmouse/download.html>
